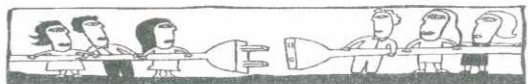


「つながろう会」だより



<http://www.geocities.jp/tunagaroukai/index.html>

第2号 平成25年1月25日発行
代表 河津瑞久
事務局 近藤健

今年巳年。このつながろう会も細く長く、いろいろな人をつないでいける会にしたいと思います。本年もよろしく願いいたします。

「つながろう会」に参加されませんか？ こんな会をしています。

★どんな会？

同じ悩みを持つ親同士がかまえずに話せる場があればとの思いから県西部で不登校児童生徒支援に携わってきた教師 OB 等で発足いたしました。

★月例会

毎月1回、第2土曜日に月例会を開いています。不登校の親御さん、子どもの育ちに不安を感じている家族、不登校の親経験者、支援者がメンバーです。

普段思っていることを話すだけでも頭の中が自分で整理できます。第三者からの有効なアドバイスを聞いたり、情報交換ができる場です。

気持ちのわかる信頼できるメンバーがそろっていますので、少しでも行ってみようかなと思われる方は、迷わずお越しください。

お待ちしております。



★月例会の予定

これからの予定は下記のとおりです。

期日	時間	場所
2月 9日 (土)	2時～4時	福生西公民館
3月 9日 (土)	2時～4時	〃
4月 13日 (土)	2時～4時	〃
5月 11日 (土)	2時～4時	〃 (予定)
6月 8日 (土)	2時～4時	〃 (予定)
7月 13日 (土)	2時～4時	〃 (予定)

☆お茶を飲み、おしゃべりをしながらほっとしたひとときを過ごしませんか？

☆どなたでも自由にお越しいただけます。

☆公民館の都合で変更になることもありますのでお気軽に事務局までお問い合わせください。つながろう会 HP でもお知らせしています。



～毎月第2土曜日 福生西公民館
どなたでもどうぞ～

「心によりそうということ」

～不登校・ひきこもりについて

考えてみよう～



シンポジウムの報告

昨年の12月2日、岡山県で不登校やひきこもり家族の支援を続けておられるNPO法人リスタート事務局長の村本和孝氏の講演会と、参加者によるグループトークを行いました。

長く活動されてきた村本氏のお話には家族がどのようにかかわっていったらよいか、というヒントがたくさんありました。

いくつかを紹介します。

「第三者のかかわりが重要」

生きるために必要なのは人と関わること…家族だと近すぎて煮詰まってしまうときでも信頼できる第三者に関わってもらうことはとても重要です。

「かかえないこと」

一人や家族だけで抱えないで、誰かに話したり相談したりすることで心が落ち着くかもしれません。

「親は仕事をやめたりせず、サークル等の活動にもどんどん参加した方がよい」

親が家にいると部屋から出てこれない子どもさんも、家に誰もいなくなると部屋から出て、動き始めます。また、親が元気で変わらぬ毎日を過ごすことは本人の気持ちを軽くします。

「いろいろな支援に手を伸ばすことは情報収集になる。どこと繋がるかはその子が決める」

「高校卒業と自動車の運転免許は人生のラインス。この二つは自分を助ける」

「高校を卒業させてください」・「大学を卒業させて下さい」という依頼には応えない。なぜなら人生80年を見据えた支援を考えているから。卒業してから仕事につき、継続していく力が必要」

どのことばも実際の支援に長く関わってこられたからこそ、出てきたメッセージでした。どれか一つでもご家族の方の心の支えになれば幸いです。

問い合わせ先事務局

近藤 健 0859-54-2774
渡邊奈津美 090-7374-0153
E-mail
maminatu+tunagaroukai@gmail.com



「私の初体験」

事務局 近藤 健

不登校児童生徒、ひきこもりの青年の親の会「つながろう会」の設立趣旨は同じ悩みを持つ親同士がかまえずに話せる居場所があればとの思いから、ご希望の親御さんたちが集まって「月に1回学習会」をしようと県西部の不登校児童・生徒支援に携わったOBの教師等で平成23年9月に米子市で発足しました。

市町村の各教育委員会並びに各学校の先生方に趣旨と目的のご理解とご協力をいただき、関係者の親御さんに届くようにとの願いと世間様に知ってもらうために、講演会を企画しました。

第1回目は「10秒の愛」



琴浦町立赤碕中学校PTA会長

井上洋子さんに平成24年6月3日に「10秒の愛」というテーマで講演してもらいました。お話は7年前に聴いた講演会からヒントを得て、その当時、以西小学校のPTA活動に取り入れた「10秒の愛」キャンペーン。家庭・地域・学校での子育てや子どもとの関わり方にかしながら、その活動は琴浦町全体の取組にまでじわじわと広がり、「10秒の愛実行委員会」が立ち上げられたということです。

「10秒の愛」という合言葉は「たかが10秒、されど10秒」、この少しの時間を意識して、優しさの貯金を積み重ねていくことで、子どもが安心して笑顔で過ごすことができるように支えていきましょう、という意味です。私は、自分自身からの発想転換チャンスはいつでもできること、少しの時間でも継続することの大切さ、何事にも待つこと、一呼吸置くことの重要性に気づかせてもらいました。

第2回目「シンポジウム」で初体験

さて、前置きが長くなりましたが、「私の初体験」は第2回目の企画のシンポジウム「心によりそうということ～不登校・ひきこもりについて考えてみよう～」です。シンポジストは初めての経験です。結論を先に言えば、「なるようにしかならないわ」と腹をくくり、開き直ったら気持ちも楽になり、落ち着きました。私が話したことは、つながろう会の活動概要と月例会参加の要点です。

月例会参加の提案は

- ① 出席するときには家族の人に「行ってきます」と伝えてほしいこと。
- ② 参加しにくい方はお友達を誘ってみるとか、親しくしてもらっている先生がおられたら、一緒に行って貰えないかお願いしてみる。
- ③ もし誰も思いつく人がなければ、保護者としては“一大決心”がいることですが、何はともあれ参加してみてください。
- ④ 初参加者の中には「聴くだけでしゃべりたくない方」もいらっしゃると思います。ただ「コーヒーをいただきに来ました」と言って参加下さい。遠慮はいりません。(見学)



- ⑤ もう一つのお願いは、1回参加してみてこんなものかと判断しないで欲しいことです。毎回、毎回話される内容も雰囲気も違います。参加人数の多いときもあれば少ない人数の時もあります。2～3回は参加してみてください。よかったら続けて参加すればいいし、自分に合わなければやめればいいのです。良い御縁があるかもしれません。

将来、日本を背負ってくれる子ども達です。子ども達は将来何になりたいのか“夢や希望”を持っています。

子ども達の成長は国民みんなの宝であり、みんなで支えなければと私は思っています。「つながろう会」の啓発運動の応援団の一人になって下さいませんか。これで私の初体験の報告は終わります。



* 一言コラム *



「復活は結構簡単」。中学時代に2年以上学校に行かなかった子に「今、何か言えることがあれば」と聞いて出てきたことばです。高校に入ると部活に参加し、遅くまで友人と話していたなかなか帰ってこない子になりました。

学校に行かない子は弱いのか？私にはそれも疑問です。学校に行かない子の理由を聞いてみてください。

そこには、自分の内面に向き合い、周囲を深く観察し、自分が今まで正しいと思ってきたことと現実のジレンマに気づき、自分の心と周囲の折り合いについて模索する姿があるかもしれません。弱いのではなくむしろ戦っているのではないのでしょうか。

子どもたちの気持ちを聞いた大人は、少なくとも自分が今まで教えてきたことと食い違うことを言うべきでないし、どんな場合でも公平で、気持ちに共感できる想像力の広さや心の大きさを備えておきたいものです。いえ、まず気持ちを話してもよいと思われる信頼できる大人になりたいものです。



つながろう会はWEBでも情報を発信しています。皆さんとの情報交換に活用していきたいと思います。ぜひ、ネットからも皆さんのご意見をお聞かせ下さい。

HPアドレス

<http://www.geocities.jp/tunagaroukai/index.html>

ブログアドレス

<http://geocities.yahoo.co.jp/gl/tunagaroukai/>

つながろう会 米子

検索